デジタル化推進特別委員会

日時： 令和７年３月18日（火）
10：00～
場所： 第４委員会室

1　はちのへスマート窓口の取組状況について　資料１

2　いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について　資料２

【配付資料】

資料１　はちのへスマート窓口の取組状況について

資料２　いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について

はちのへスマート窓口の取組状況について

資料１

面倒な手続きも はちのへスマート窓口で簡単に！

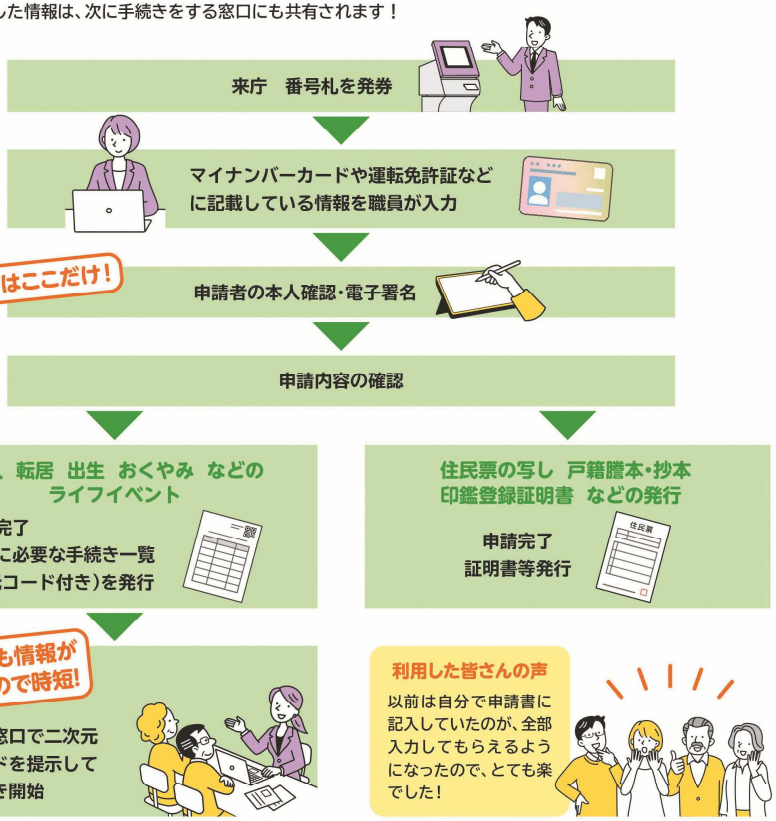
「市役所で手続きしないといけないけど、待ち時間が長い…」「何回も住所や名前を書くのが面倒…」そう感じたことはありませんか？

待ち時間を短く、スムーズに手続きを進められるよう、市では昨年11月から「書かない・待たない・行かない窓口」をコンセプトとした「はちのへスマート窓口」を始めました。今回は、その利用方法を紹介しますので、お手続きの際はぜひご利用ください。

書かない窓口

対応窓口 ●市民課 ●国保年金課 ●介護保険課 ●障がい福祉課 ●子育て支援課 ●住民税課 ●資産税課 ●南郷事務所 ●各市民サービスセンター

市民の皆さんは、申請書を書く必要はありません！職員が作成した申請書を確認し、電子署名するだけ！入力した情報は、次に手続きをする窓口にも共有されます！



待たない窓口

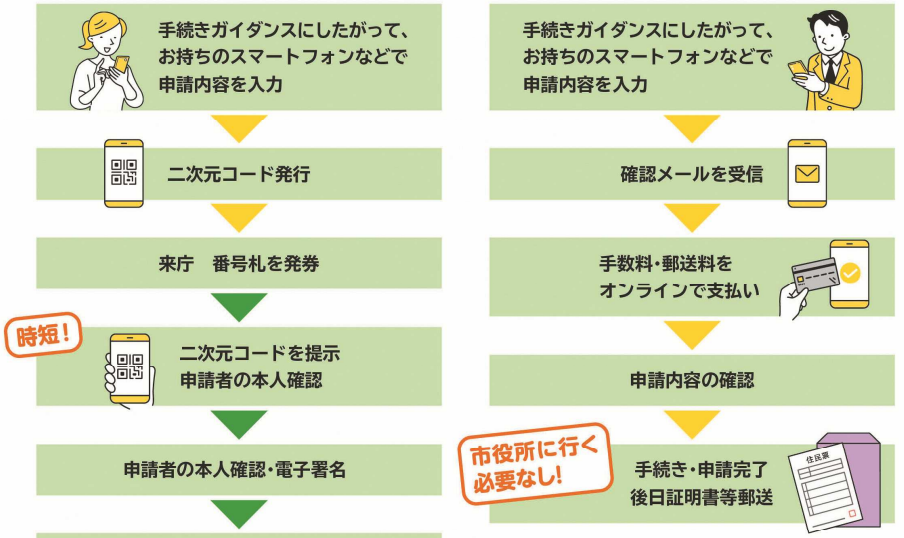
事前にオンラインで申請書を作成しておくことで、窓口での手続きにかかる時間を短くすることができます！

行かない窓口

自宅で、申請から支払いまでの手続きを全てオンラインで完了できます！

※マイナンバーカードと署名用電子証明書用暗証番号（英数6～16文字）が必要です。

住民票の写し　戸籍謄本・抄本　印鑑登録証明書　税証明　などの発行



他にも、便利なコンビニ交付があります！

マイナンバーカードを使って、コンビニなどのマルチコピー機から証明書を取得できます。

発行できる証明書
▷住民票の写し…300円
▷印鑑登録証明書…300円
▷戸籍証明書「戸籍全部（個人）事項証明」…450円
▷戸籍の附票の写し…300円

利用可能時間
6時30分～23時（年末年始、メンテナンス日を除く）

市民満足度…上がってます！

2月に行った利用者アンケートの結果では、はちのへスマート窓口導入前（6年7月）に比べ、市民満足度がアップしました。

調査対象 市民課2番窓口（転入・転出手続きなど）と3番窓口（証明書発行など）の利用者

全体 **91.8%**（満足）（前回調査比 +8.3ポイント）

手続きにかかった時間
76.6%（満足）（前回調査比 +10.2ポイント）
2番窓口 1件当たり2分16秒減
3番窓口 1件当たり1分55秒減

手続きの簡便さ
89.0%（満足）（前回調査比 +12.6ポイント）

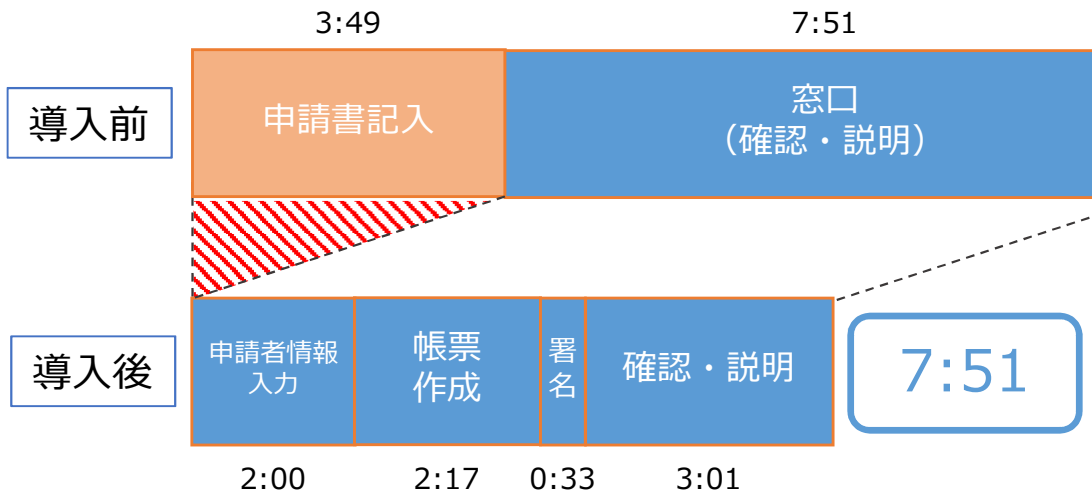
問▷記事について…広報統計課 ☎43-9317　▷はちのへスマート窓口について…情報政策課 ☎43-2124

2

はちのへスマート窓口の取組状況について（導入後の効果）

はちのへスマート窓口導入後の効果（手続き時間の短縮）

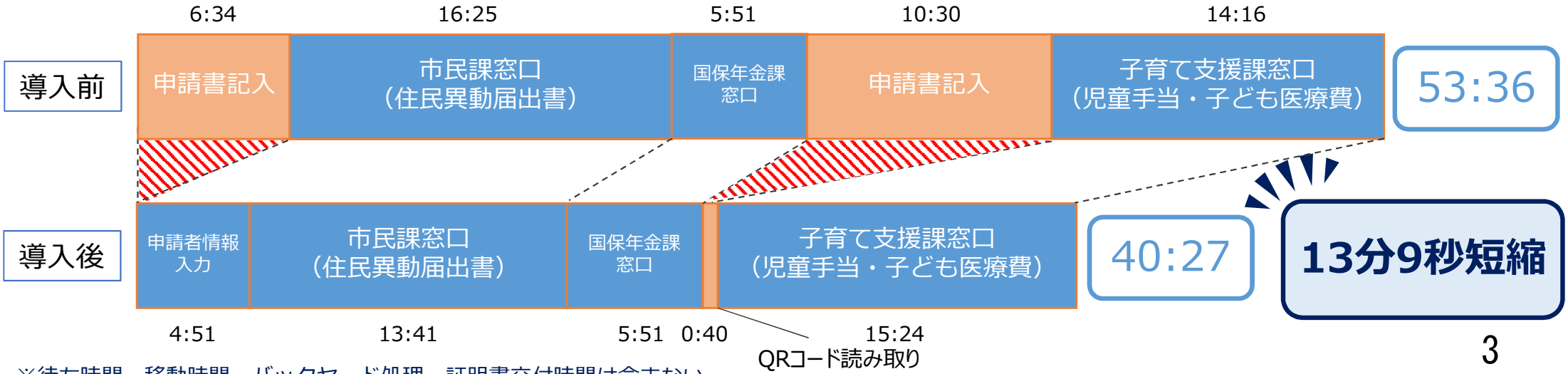
単独窓口（住民票の写しなど）



3分49秒短縮

※待ち時間、移動時間、バックヤード処理、証明書交付時間は含まない

リレー方式（市民課～国保年金課～子育て支援課）



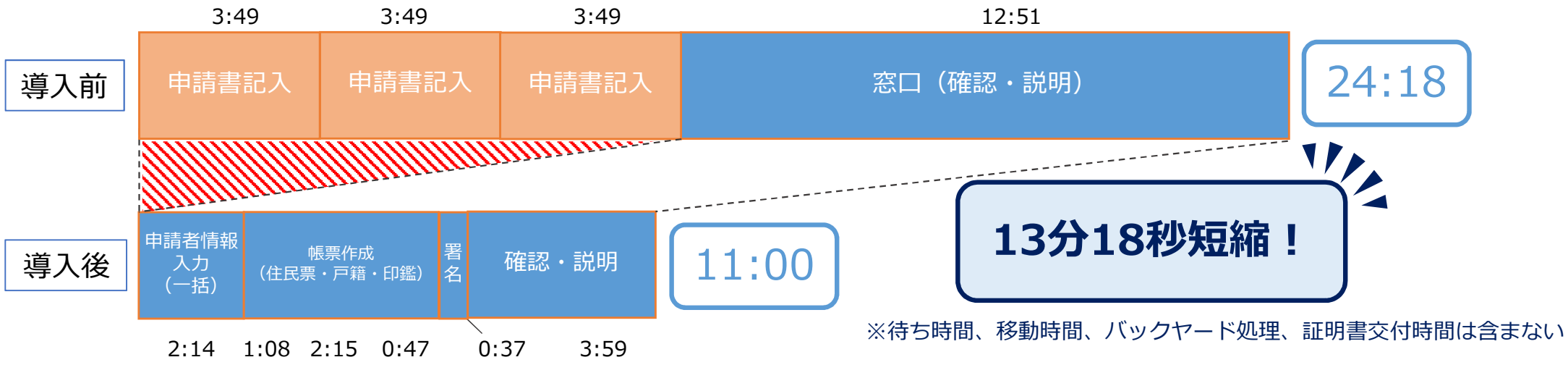
13分9秒短縮

※待ち時間、移動時間、バックヤード処理、証明書交付時間は含まない

はちのへスマート窓口の取組状況について（導入後の効果）

はちのへスマート窓口導入後の効果（手続き時間・利用者満足度）

複数申請　（サービスセンター等想定　住民票・戸籍証明書・印鑑登録証明書）



※待ち時間、移動時間、バックヤード処理、証明書交付時間は含まない

利用者満足度

令和7年2月に行った利用者アンケートの結果では、はちのへスマート窓口導入前（6年7月）に比べ、満足度がアップ

調査対象：市民課2番窓口（転入・転出手続きなど）と3番窓口（証明書発行など）の利用者

全体 91.8%（前回調査比+8.3ポイント）

手続きにかかった時間 76.6%（前回調査比+10.2ポイント）

手続きの簡便さ 89.0%（前回調査比+12.6ポイント）

はちのへスマート窓口の取組状況について（基礎データ）

申請件数と１件あたり平均処理時間（令和６年11月18日～令和７年２月末）

単位：件

	合計	11月	12月	１月	２月	１件あたり平均処理時間
住民異動届出書	5,056	824	1,359	1,445	1,428	13分56秒
住民票の写し	11,288	1,572	3,076	3,243	3,397	6分24秒
戸籍証明書	7,137	1,012	1,857	2,114	2,154	10分41秒
印鑑登録証明書	7,961	1,093	2,052	2,368	2,448	6分15秒
マイナカード関係	12,705	1,527	3,139	3,750	4,289	7分21秒
税関係証明書	3,174	466	833	857	1,018	6分31秒
児童手当・児童扶養手当	706	165	202	170	169	12分31秒
子ども医療費関係	728	240	127	153	208	13分48秒
行かない窓口（オンライン申請）	22	4	1	8	9	－
その他	5,349	873	1,466	1,618	1,392	－
合計	**54,126**	**7,776**	**14,112**	**15,726**	**16,512**	－

- 平均処理時間は、令和７年２月の操作ログデータより、リレー方式を除く単独窓口での平均処理時間を算出。各数値については、操作ミス等による異常値・外れ値を除いている。
- ゆびナビぷらすを操作した時間のみ算定（待ち時間、移動時間、バックヤード処理、証明書交付時間は含んでいない）

いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について

資料２

はちのへITフォーラム2024

日　時：令和6年11月20日(水)　14時～17時
場　所：八戸プラザホテル
参加者：**205名（満足度88%）**
内　容：テーマ　「デジタル技術が拓く、八戸の未来」
　　【第1部】基調講演　【第2部】パネルディスカッション

デジタル人材育成に理解
はちのへＩＴフォーラム

地域のＩＴ化推進について考えたフォーラム＝20日、八戸市

デジタル化推進の機運を高めるため、八戸市は20日、八戸プラザアーバンホールで「はちのへＩＴフォーラム」を開いた。オンラインを含めて事業者や市職員、学生ら約200人が出席し、企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）やデジタル人材育成の必要性に理解を深めた。

東北地方で起業家や企業支援に取り組む「スパークル」（仙台市）の福留秀基代表が基調講演を行い、地方企業のDX戦略のポイントを解説した。福留代表は「DXは人材が要。企業のありたい姿を定めてから、一歩ずつ実践することが大切だ」とアドバイスした。

パネルディスカッションでは、市と地元企業などの6人が登壇した。「包摂的デジタル社会の実現」をテーマにした意見交換では、若手のデジタル人材育成に積極的な「アイティコワーク」（八戸市）の岡本信也取締役が「事業としてもうけはないが、業界を盛り上げるためだ」と強調。高齢者向けのデジタル支援を行う「祇と山と」（同）の蔵加奈子代表は「デジタルサポーターが不足しているのは、活動がボランティア頼みだからだ」と指摘した。

これを受け、市デジタル推進室の古里陽一室長は「市は地域のデジタル化を掲げており、行政として支援していかなければならない」と応じ、デーリー東北新聞社システム開発部の十文字孝太次長は「デジタル人材はどこの企業も求めている」と語り、人材育成の取り組み強化を訴えた。

（中川しのぶ）

いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について

ワークショップ

概要

Tech Buddies Hachinohe　～テクノロジーをともにする八戸の仲間～
令和６年度は計４回開催。

ワークショップ名	開催日	参加者数	満足度(%)
IT業界をめざす学生とIT業界で働く先輩のミートアップ	令和6年9月28日	20名	92%
はちのへスマホサポート講習会	令和6年12月14日	31名	100%
店舗のInstagram(&デジタル活用)徹底クリニック	令和7年1月20日	43名	97%
八戸市ハッカソン2025	令和7年2月22日 ～23日	32名	100%
	合計	126名	98%

いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について

ワークショップ

令和6年9月28日
IT業界をめざす学生とIT業界で働く先輩のミートアップ

グループトークで意見を交わす参加者＝28日、八戸市

IT業界 どう働く？

学生が「先輩」と意見交換

八戸市デジタル推進事業

若者のデジタル人材育成を目指し、八戸市は28日、同市番町のコワーキングカフェ「エスタシオン」で、交流会「IT業界をめざす学生とIT業界で働く先輩のミートアップ」を開き、学生が業界の状況ややりがいに理解を深めた。

市の「いきいきとしたデジタル社会推進事業」の一環。学生は業界に興味がある高校生、高専生、大学生ら11人が参加した。

市内の企業やフリーランスでエンジニアとして働く4人の「先輩」が、トークセッションで一日の働き方などを紹介。その後、学生とグループトークを行い、職業を選んだきっかけや必要な資格など、学生の質問に応じた。

最後に4人が学生にアドバイス。このうち、エプソンアトミックスの音海隆太さんは「今はどの分野が自分の武器か分からないと思うが、やって失敗しても、得た知識は別の所で生かせる」と語った。

専門学校アレック情報ビジネス学院1年の池端廉太朗さんは取材に、「IT業界での方向性が決まっていなかった。実際に働いている人の意見は参考になり、考えるきっかけになった」と話していた。

（出川しのぶ）

令和6年12月14日
はちのへスマホサポート講習会

講習会で学んだことを生かしながら、高齢者にスマホの使い方を教える参加者

シニアにスマホ教えるこつは

指導者育成ワークショップ

八戸

八戸市は14日、高齢者に対してスマートフォンやタブレットの操作を指導できる、指導者育成を目的としたワークショップ「はちのへスマホサポート講習会」を開催した。参加した約20人が、シニア世代にスマホなどの使い方を教える際のノウハウを学んだ。

市の「いきいきとしたデジタル社会推進事業」の一環で、同事業の委託事業者である「コネクトグローカル」（八戸市）が企画。講師は「浜と山と」（同）代表の蕨加奈子さん、「みらいクリエイド」（同）代表の森淑乃さんが務めた。

参加者は、シニア世代がスマホに苦手意識を持つ理由や、支援する側に求められる心構えなどを学んだ後、実際にスマホに不慣れな高齢者らに対応する「実践会」に臨み、使用する上での疑問や困り事に、親身になって答えた。

実践会終了後には、蕨さんが「シニア世代がスマホを学べる機会は少ない。みなさんが地域のサポーターになって、手伝ってあげてほしい」と呼びかけた。

参加した新郷村の公務員湯川聡之さん（31）は「スマホを使い慣れている目線と、そうではないシニア目線の違いが、実際に対話することで見えてきた。勉強になった」と話していた。

（金濱千優希）

いきいきとしたデジタル社会推進事業の取組状況について

ワークショップ

で家を建てる会や十和田建設組合などが県庁を訪問。要望書には▽施工業者の理解促進▽品質向上と安定供給のための支援▽利用支援▽広報活動の推進―の4項目を盛り込んだ。

要望書を受け取った宮下知事は「林業は青森県の将来に欠かせないもので、県の取り組みもさらに強化したい」と強調。

津軽の木で家を建てる会の小嶋英嗣会長代行は取材に「抜本的な改革に期待したい。まずは県産材を使いたいと思ってもらえるような取り組みを進めたい」と意欲を示した。（三浦千尋）

インスタ活用の情報発信方法は

八戸市、事業者向け講座

八戸市は20日、同市の「はっち」で店舗事業者を対象にした「店舗のインスタグラム（&デジタル活用）徹底クリニック」を開催し、44人が効果的な情報発信方法などを学んだ。

市の「いきいきとしたデジタル社会推進事業」の一環。同事業の委託事業者である「コネクトグローカル」（八戸市）が企画した。

講師を務めた「浜と山と」（同）の蕨加奈子代表は、インスタグラムの表示ルールが頻繁に変更されることに触れ「フォロワー数にとらわれず自社にとっての最適解を探って」と強調。

SNSコンテンツではメニューや営業時間などの「機能的価値」と、おいしさやきれいさなどを伝える「情緒的価値」が重要であることなどを説明した。（田村祐子）

店舗経営者がSNSの活用法を学んだ講座＝20日、八戸市

▼大和ハウス、初任給10万円増　大和ハウス工業は20日、4月から新卒の初任給を一律で10万円引き上げ、大卒は35万円にすると発表した。現行から38～43％増となる。正社員の給与水準も見直し、年収ベースで平均10％上げる。建設業界では人手不足が課題で、採用環境が厳しい中、優秀な人材を確保する狙い。初任給は院卒を36万2千円に、高専卒・専門学校卒・短大卒は33万2千円にする。給与水準の改定は正社員約1万6千人が対象。

令和7年1月20日
店舗のInstagram（&デジタル活用）徹底クリニック

デジタル人材育成へ初企画

課題解決アプリ開発に挑戦

学生と社会人4チーム 食品ロスなどテーマ

八戸　八戸市は22、23の両日、八戸工業大で、エンジニアやデザイナー、学生などがチームを組み、短期集中的にアプリを共同開発して成果を競う「ハッカソン」を開いた。市内の学生や社会人による4チームが、地域課題の解決につながるアプリのアイデアを考え、プロトタイプを作り上げた。（卅川しのぶ）

ハッカソンは同市で初の開催。市の「いきいきとしたデジタル社会推進事業」の一環で、アプリの実装を目指すのではなく、デジタル人材の育成とつながり作りを目的としている。

IT企業などに勤める社会人11人と学生4人が参加した。アイデア出しとチーム決めの後、アプリの開発に取り組み、最終日は発表会と表彰が行われた。

各チームが考案したアプリは、▽習慣にしたいことをクエストとして設定し、達成度を可視化することで、ゲーム感覚で習慣化を目指す「人生OS」▽食品ロスの解消に向け、卵の余剰と不足を個人間でマッチングする「シェアエッグ」▽地元の隠れた名所を発掘し、新たな観光先として提案する「ジモニッチ」▽家庭の食卓の買い物傾向を推定し、市場価格を考慮して購入リストを提案する「何も考えたくない」―の4種類。

「人生OS」が最優秀賞を受賞した。メンバーで、IT企業に務める福山貴徳さん(29)は「話し合いで盛り上がり、想像しなかったようなアイデアも出てきて、自分にとって刺激になった」と話していた。

参加者同士で作ったプロトタイプを解説し合い、交流会も行われた。

作成したアプリのプロトタイプについて解説し合う参加者

令和7年2月22日～23日
八戸市ハッカソン2025